

福祉現場の人材養成

2単位

担当教員：綿 祐二

「福祉理念・理論と実践の融合」のできる福祉専門職を育てるためのキャリア形成および職場環境整備について学ぶ

講義目的・到達目標

「福祉専門職」は何をすべき職業か

福祉現場における支援実践は、多くの命題的理念が基盤にある。その理念・理論によって福祉専門職は成り立っている。自己の業務を振り返り、その基盤になっている理念・理論を整理して、福祉専門職の業務の意義について再確認を行う。福祉専門職の業務は多岐にわたり、客観的に業務を整理することで課題が抽出される。実際に、職員達がどこでつまづき、どこで悩んでいるのか、業務の棚卸しを行い、福祉専門職としてのキャリア形成を行っていくのが第1目標である。

命題的理念を福祉現場で具現化し、福祉専門職の専門性の確立をおこなう

実際の福祉現場の支援の事例を通して、理念・理論と実践の乖離の現状を明確化していく。福祉現場では、多様な価値観の中でチームを組み、ひとつの目標に向かっていく。そのためにコンセンサスを持つことは非常に重要であり、しかしながら大変難しい。それぞれの専門家にはそれぞれの価値観がある。福祉現場では、その乖離を融合していくための討論を行っていくことが非常に重要である。本講義では、自分の価値観を他者の価値観とぶつけることで、議論の解決の糸口を見つけていくことを第2の目標とする。その後、職場環境の整備、チームアプローチの方法、リスクマネジメント法など具体的な方策まで言及していく。

講義の構成

講義の流れ

講義は、2つのステージで構成される。第1ステージは、それぞれの福祉専門職の業務の意義とそれを支える命題的理念や普遍的価値観を整理することである。つまり、福祉専門職のキャリアイメージの確立を目指す。福祉専門職が持つべき「権利擁護」「職業倫理」「利用者本位」「エンパワーメント」「尊厳ある支援」「行動規範」「リスクマネジメント」などを具体的福祉現場の場面を想定し議論を行う。第2ステージでは、それらを事例を通して、具現化するための価値交流を行っていく。福祉現場では、多様なかつ複雑な対象者に対して支援をしなければならない。頭で理解しても、実際には異なった実践がある。例えば、「拘束」と「ミンの使用」は同じなのか、食事場面で偏食は利用者本位なのか、「完全」と「挑戦」どちらが大切なのか、「支援・介護事故を無くすには～事故要因分析方法～」など、それらを職員の中で共通認識を持たなければ、本来の人材育成には繋がらない。「理論と実践の融合」のできる職員育成について学習する。

1 福祉専門職の意義と自己覚知

2 福祉現場で職員が抱えている課題の抽出

3 理論と実践の乖離の明確化

4 具現化するための討論

5 職場でのコンセンサスの確認

6 「理論と実践の融合」
「エビデンスのある支援」の確立

7 最終修了レポート

講義のポイント

福祉専門職は、個人の価値観に資するところが多い。まずは、福祉専門職としての自己覚知を行う。その後、実際の福祉現場における職業人としての課題を見つけることである。実際の福祉現場の支援を客観的に振り返り、理論と融合させていくことが重要である。決して「机上の空論」で終わってはいけない。福祉専門職は、徹底的に議論を続けていく職業であると考えている。

受講するにあたって

- ①事前学習の
すすめ これまでの福祉実践の客観的振り返りと支援に対する困難であったことや迷いを具体的場面の中であげておくことが望ましい。
- ②参考図書 講義の中でそれぞれの課題にそって、参考図書を紹介する。
- ③評価基準 科目修了試験と出席による総合評価を行う。
- ④より学びを
深めるために 福祉現場は、多くの迷いの中での実践がある。変わらない命題的理念と変わりゆく制度や対象者を整理した上で、福祉専門職像を確立してほしい。